

公立大学法人九州歯科大学

I 全体評価

公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、5事業年度目を迎えたところであるが、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和4年度の評価にあたっては、これまでの業務実績も踏まえ、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

九州歯科大学では、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育や、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育を行うとともに、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病啓発事業を幅広く展開するなど、地域貢献にも注力している。令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響が継続したが、ICTを活用しながら対面授業と遠隔授業を組み合わせを行ったほか、附属病院における診療参加型臨床実習を適正に実施するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。特に、成人歯周病検診にかかる寄附講座活動を継続し、歯周病リスク検査や歯周病検診事業を幅広く展開している点について、優れていると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の令和4年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

九州歯科大学は、歯科医療の高度化・専門化や高齢化社会の進展等、多様化するニーズへの適切な対応が求められる中、公立大学としての役割を踏まえ、教育研究はもとより地域貢献の充実に向けた取組を積極的に行っている。引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、これらの取組を一層推進し、地域歯科医療及びその人材育成の中核として発展することを期待する。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
 - ・新入生スタートアップ学修支援プログラムについて、前年度の検証結果を受け、前期定期試験等の結果に基づいて個別のリメディアル教育を実施するなど、初年次教育の充実に取り組んでいる。
 - ・コロナ禍において、ICTを活用しながら対面授業を実施するとともに、附属病院での診療参加型の臨床実習を継続し、実践的な歯科医療人の育成に力を入れている。
 - ・デジタル歯科用シミュレーターによる実習を充実させ、歯学教育におけるDXの活用を実践した。
 - ・アウトカム基盤型教育のもと、ルーブリックによる評価を実践し、コロナ禍においても総合医科病院での臨地実習を継続して実施することにより学生の学力の向上に取り組んだ。
 - ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和5年の歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）は全国平均を上回る高水準を維持しており、歯科衛生士国家試験合格率は引続き100%であった。
- (2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成
 - ・ルーブリック評価を実施して学生の学びの達成度を適切に評価するなど大学院の教育システムの改善に取り組み、学生の研究活動の質的向上に繋げている。
- (3) 教職員の教育力向上
 - ・ファカルティ・ディベロップメント（FD）部会を中心に、FD研修後に複数回のアンケートを実施して研修効果を検証したほか、学生による授業評価での指摘を教員にフィードバックする等、教育能力の向上に取り組んでいる。
- (4) 意欲のある優秀な人材の確保
 - ・広報学生アンバサダー制度を新設し、広報誌 Platys の編集発刊プロセスに在校生を参加させ広報誌の充実を行うとともに、コロナ禍において、WEBオープンキャンパスの開催や、高校訪問に代えたパンフレットディスプレイケースの郵送など、意欲のある優れた人材の確保に取り組んでいる。
- (5) 学生の学修及び生活支援
 - ・コロナ禍において、教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携して学生支援体制を強化し、健康問題や精神的な悩みを抱える学生、成績不振の学生等に対して支援を行うとともに、新入生に対しては、初年次ガイダンス等を通じて、円滑に遠隔授業の受講ができるよう修学環境構築の支援を行った。

(6) キャリア支援

- ・キャリアサポート部会が主体となり、キャリア支援クラウドサービスを利用した就職情報の一元化やオンライン面接ブースの設置など、就職支援の充実に取り組んだ。口腔保健学科においては、引き続き就職率100%を達成している。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学術誌への論文掲載数、科学研究費補助金の応募数、獲得数ともに目標を上回るなど、研究活動の充実に取り組んでいる。
- ・コロナ禍の中、医科歯科連携協定を活用し、地域の総合病院と連携した地域包括ケアシステムの構築に資する研究活動を継続して実施した。
- ・寄附講座において歯周病検診事業を展開し、県内事業所の就業者を対象に「歯周病リスク検査」を行い、被験者の口腔ケアに向けての行動変容を促すとともに、歯周病予防と全身疾患との関連にかかる研究を推進している。

3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・コロナ禍において活動が制限される中、県下の歯科医師、歯科衛生士を対象としたオンデマンド方式の講習会のほか、高齢者の摂食支援や医療的ケア児支援に関するwebセミナーを開催するなど、地域貢献活動を幅広く推進している。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、協定締結機関との連携を引き続き推進するとともに、北九州市内の救急小児医療機関の医師と医療的ケア児支援の歯科治療及び口腔ケアに関する連携について意見交換を行うなど、小児版・地域包括ケアの検討を進めている。
- ・コロナ禍における国際交流推進の取組みとして、学生の海外短期派遣プログラムに代えて、タイ、台湾の大学との間でオンライン国際交流プログラムを実施した。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学生の健康管理を充実させるため、教員、保健師及びカウンセラーで情報共有を行い、学生指導に繋げた。また、健康管理センターを設置し、担当保健師を配置して教職員の健康管理を充実させる体制を整備している。
- ・文部科学省の事業を活用して、電子カルテと連携した資料作成システムを整備し、患者の症例を用いた治療計画の立案をデジタルアーカイブシステムに組み込み運用できるようにするなど、臨床教育活動を充実させた。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で理事長自ら決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、電子カルテシステムを活用し、データ解析に基づく病院経営管理を行っている。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり：

- ・内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築し、教職員、学生及び卒業生に対するアンケート結果や外部評価を、教育の改善や大学の方針決定に反映できるよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を行い、教育研究情報を適切に公開している。